



2024年11月15日

みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社  
公益財団法人日本ライフセービング協会

## 「ライフセービングにおけるインパクト評価」の公表について

みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社（代表取締役社長：安原 貴彦）及び公益財団法人日本ライフセービング協会（理事長：入谷 拓哉）は、このたび「ライフセーバーによる「安全な海」への貢献に関するインパクト評価」（以下、本レポート）を公表しました。

本レポートは、公益財団法人日本ライフセービング協会に所属するライフセーバーによる活動の社会的価値を可視化することを目的として、インパクト評価を実施したものです。

従来の算定手法では、ライフセーバーの活動の価値化においてレスキュー数が多ければ多いほどインパクトが大きく算定されるロジックとなっていました。一方、本分析では公益財団法人日本ライフセービング協会が目指す、レスキュー数が0となる、つまり「無事故」であることが最大のインパクトとなるように、「海辺・水辺の事故防止活動」の効果に重きを置いたロジックを開発しました。本レポートを通じて、ライフセーバーの活動の理解が深まることにより、ライフセーバーの重要性に関する認知が広まることを期待しています。

### 【ライフセービングにおけるインパクト評価 URL】

[https://www.mizuho.bank.co.jp/fintec/news/pdf/202411\\_safe\\_sea\\_report.pdf](https://www.mizuho.bank.co.jp/fintec/news/pdf/202411_safe_sea_report.pdf)

インパクトとは、従来の資本主義の“モノサシ”では捉えきれない、事業や活動の結果として生じた社会・環境的な変化や効果を指します。日本においては産官学金による「インパクトコンソーシアム」が設立されるなど、インパクトへの関心が高まっています。今後、経済価値だけでなく社会・環境価値の両立を重視したサステナブルな資本主義が組織として求められ始めているとも言えます。

みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社をはじめとする〈みずほ〉グループは、サステナブルな社会の実現を目指し、金融の枠組みを超えてお客さまの事業活動に貢献しながら、お客さまとともにインパクトの創出と収益の創出の好循環を実現することで、社会・環境課題の解決の実現を目指します。

### 【インパクトビジネスの羅針盤】

<https://www.mizuho-fg.co.jp/csr/mizuhocsr/report/pdf/compass.pdf>

ともに挑む。ともに実る。

**MIZUHO**

## 「ライフセービングにおけるインパクト評価」エグゼクティブ・サマリー

- 従来手法によるライフセーバーの「回避された死・怪我」インパクト
  - － 従来手法に則り算定された「回避された死・怪我」インパクトは 228 億円の社会的価値を創出
- ライフセーバーによる海辺・水辺の事故防止活動の価値算定
  - － 予防講習や IoT 技術等による「海辺・水辺の事故防止活動」インパクトは 130 億円の社会的価値を創出
- ライフセーバーによる「死の回避」インパクトの解釈
  - － ライフセーバーによる「死の回避」インパクトは 255 億円の社会的価値であり、これは交通事故での死亡率と同等である海水浴場（ライフセーバー配置無）での死亡率を 1/7 に減らす効果

以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

みずほ第一フィナンシャルテクノロジー 03-4232-2600